

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

高卒生は「金の卵」

製造業で2017年3月に卒業予定の高校生を採用する動きが活発になっていると日経がトップ記事で伝えています。あらゆる業種において慢性的な人手不足は深刻な問題です。求人市場ではかつての「就職氷河期」は死語となり、超売り手市場の世の中になっています。

我が国の人口構成を考えれば、今後も団塊の世代が本格的に定年退職期を迎え、一方では子供の数が減り続けています。労働力人口が需要を満たせない時代が継続する可能性が高いです。

仕事が無い時代ほど社会の活力を削ぎ、人の心を疲弊させるものではありません。東日本大震災とアベノミクスが重なり、意欲さえあれば職業を得られる経済環境とめぐり合えた幸運を若い高校生たちは無駄にしないで欲しい。職業人としては大卒より4年も早く社会にもまれるのだ。その4年という経験差は永遠に埋まらない力量であるよう精進してほしいと思うのです。

当社でも毎年高校新卒生が多数入社してきます。大学進学率が50%を超える世の中であって、ひと足はやく社会に飛び込む若者を見ているだけでうれしくなります。職場にとけ込むのには個人差があります。頼もしくもあり、頼りなくもある。完成品を求める必要はありません。

学校教育だけではない、そこに企業が加わることで人として一人前の人間に作り上げる社会であればよい。その一助になることができれば、望外の喜びです。

私は、企業の存在価値の第一は、その企業で働く人の幸せの追求であると強く思うからです。



当社では毎年、たくさん的高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

 松本 隆一郎